

第2章

# 承

語り 永島 望美

今日は私の  
自慢の親友「キキ」  
こと林咲希の  
お話をします

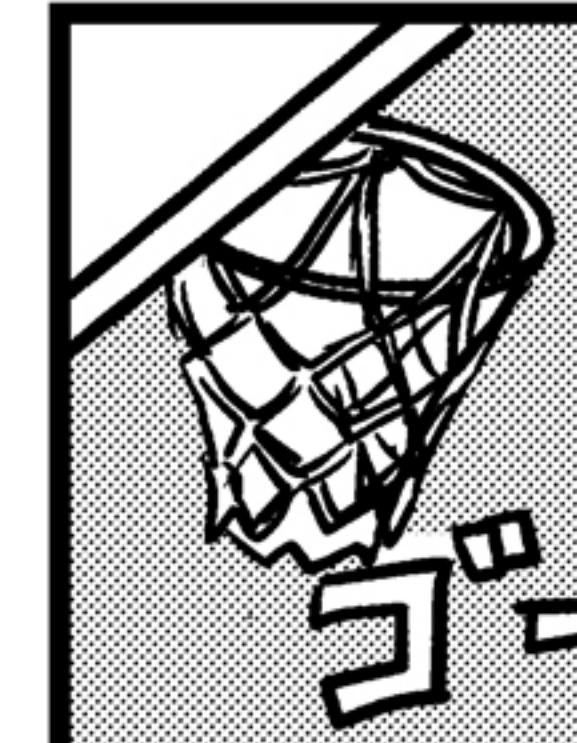
# その1 体育館の噂

おなじ福岡出身の  
キキのことは  
昔から  
知っていた私

キキの数ある  
エピソードの  
中から2つを  
ご紹介します

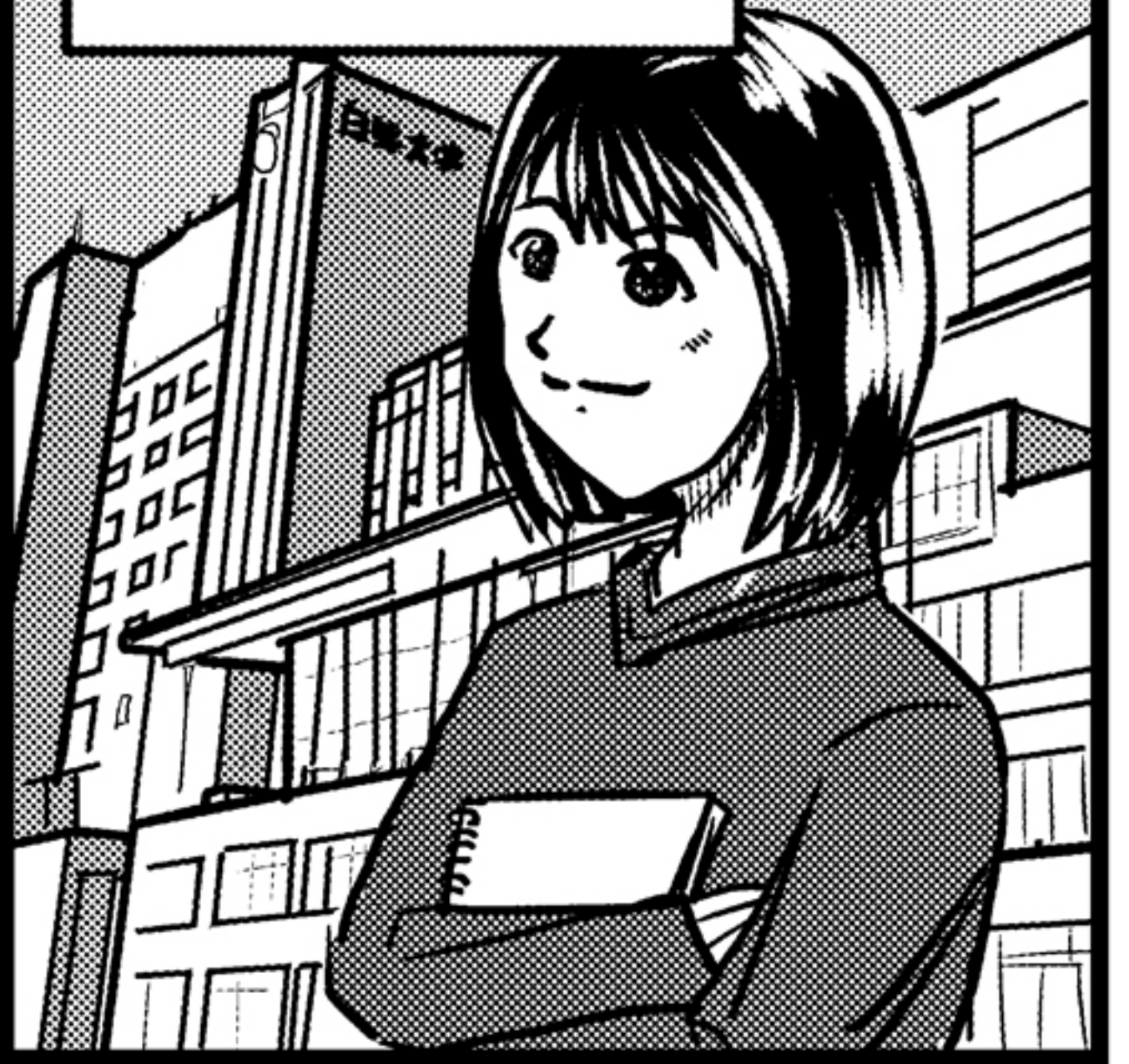
私の名前は  
永島望美  
大学4年生です

教師を目指して  
白鷗大学に通い  
バスケット部の  
マネージャーも  
しています



ゴール下

でも、大学に入るまで  
3Pシュートを打つ  
キキを一度も見たことが  
ありませんでした



キキの3Pシュートは  
大学で、人の何倍もの  
努力によって  
身に付けたもの

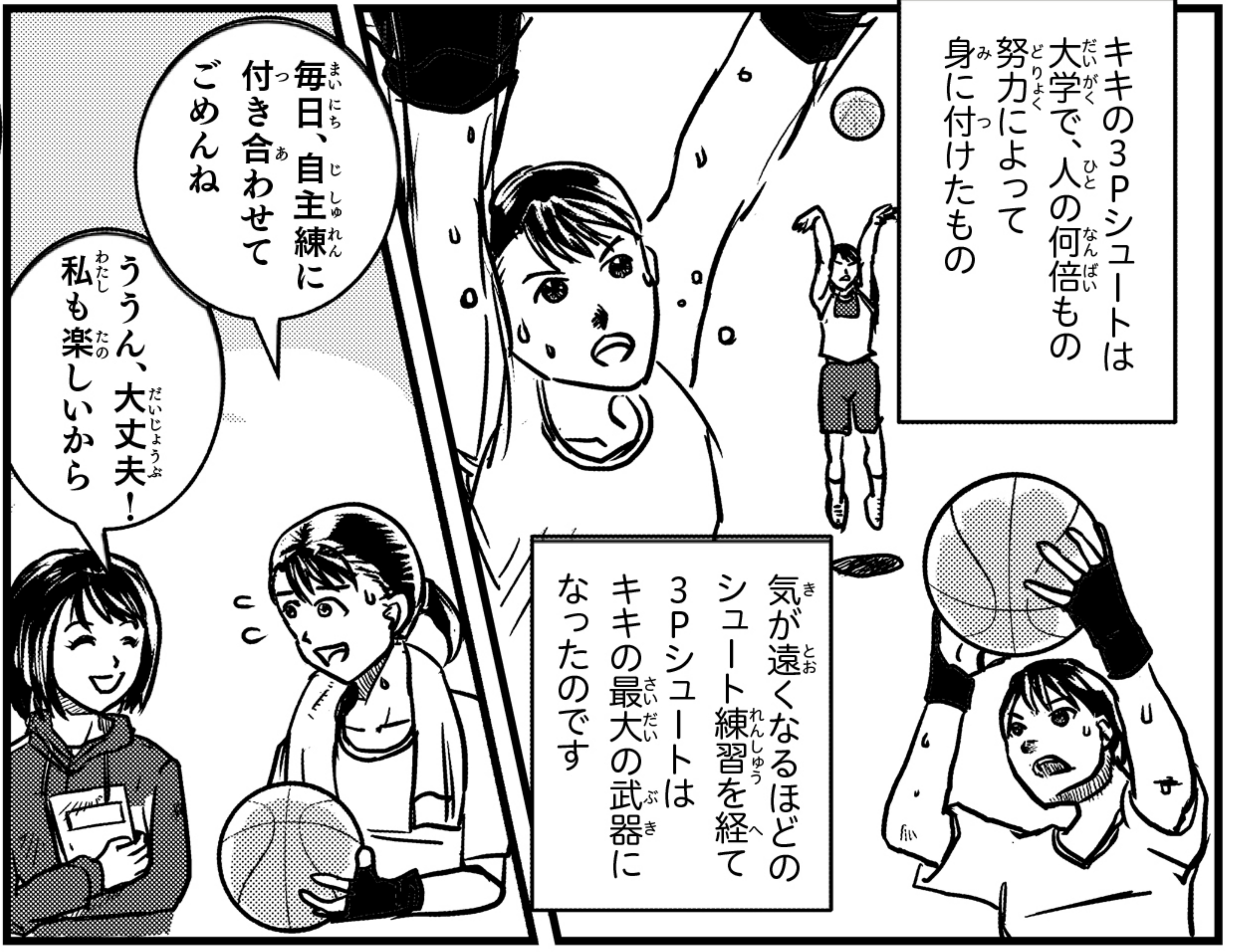
気が遠くなるほどの  
シュート練習を経て  
3Pシュートは  
キキの最大の武器に  
なったのです

毎日、自主練に  
付き合わせて  
ごめんね

ううん、大丈夫！  
私も楽しいから

あ！  
あの2人  
また体育館に  
いるよ

体育館に  
住んでるって  
噂だぜ！



# その2 言葉

キキの言葉には  
ちから  
力がある



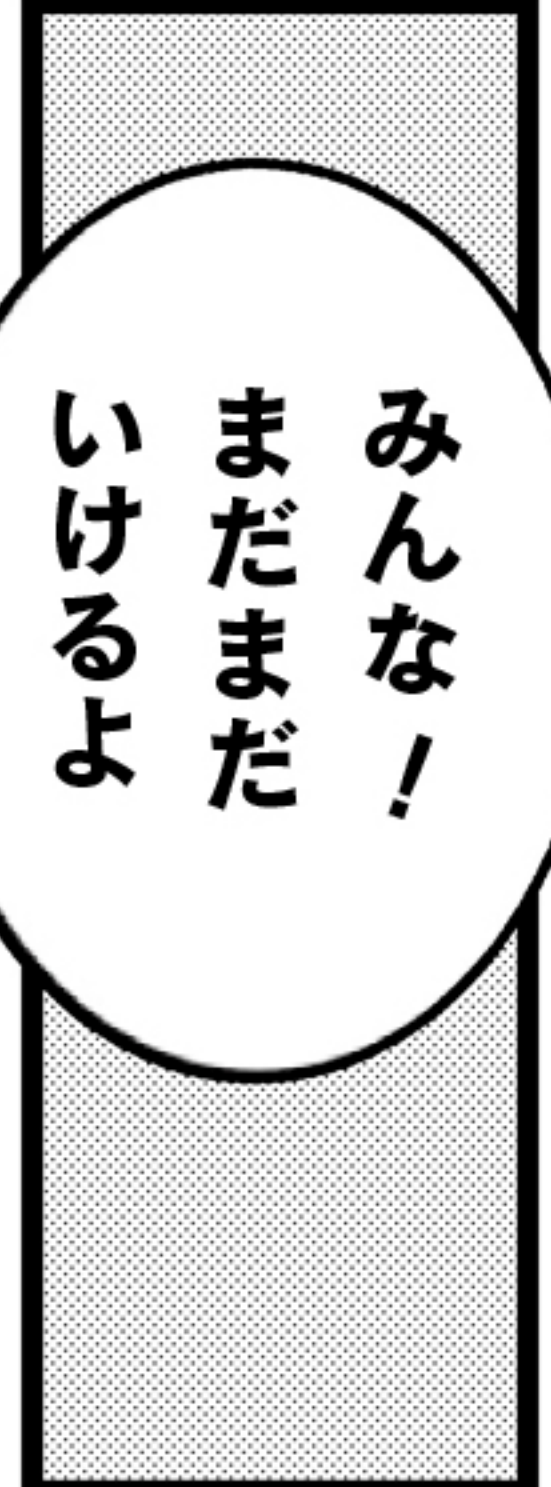
たとえ  
すごい点差で  
負けムードが  
漂う試合でも



タイムアウト  
白鷗大学



みんなの...  
空気が重い



みんな!  
まだまだ  
いけるよ



相手は  
シュート率が  
落ちてくるから  
しつかり  
リバウンド  
意識しよう!



!!



咲希の言うとおり  
ここが正念場だ  
頑張ろう!



冷静な分析に  
基づいた  
声掛けには  
みんなを納得させ  
勇気づける力が  
ありました



咲希先輩  
聞いても  
いいですか?

うん!  
どうしたの

加えて、信頼の基には  
誰の頼みにも  
親身に寄り添う  
キキの面倒見の良さが  
あると思います

さて、我々が  
バスケット部の4年生は  
選手が4人  
マネージャーが2人  
の計6人



そこもっと  
足を使って

2年連続  
インカレ決勝で  
涙をのんだ白鷗

大好きな佐藤監督を  
インカレ優勝で  
胴上げすることが  
私たちの夢でした

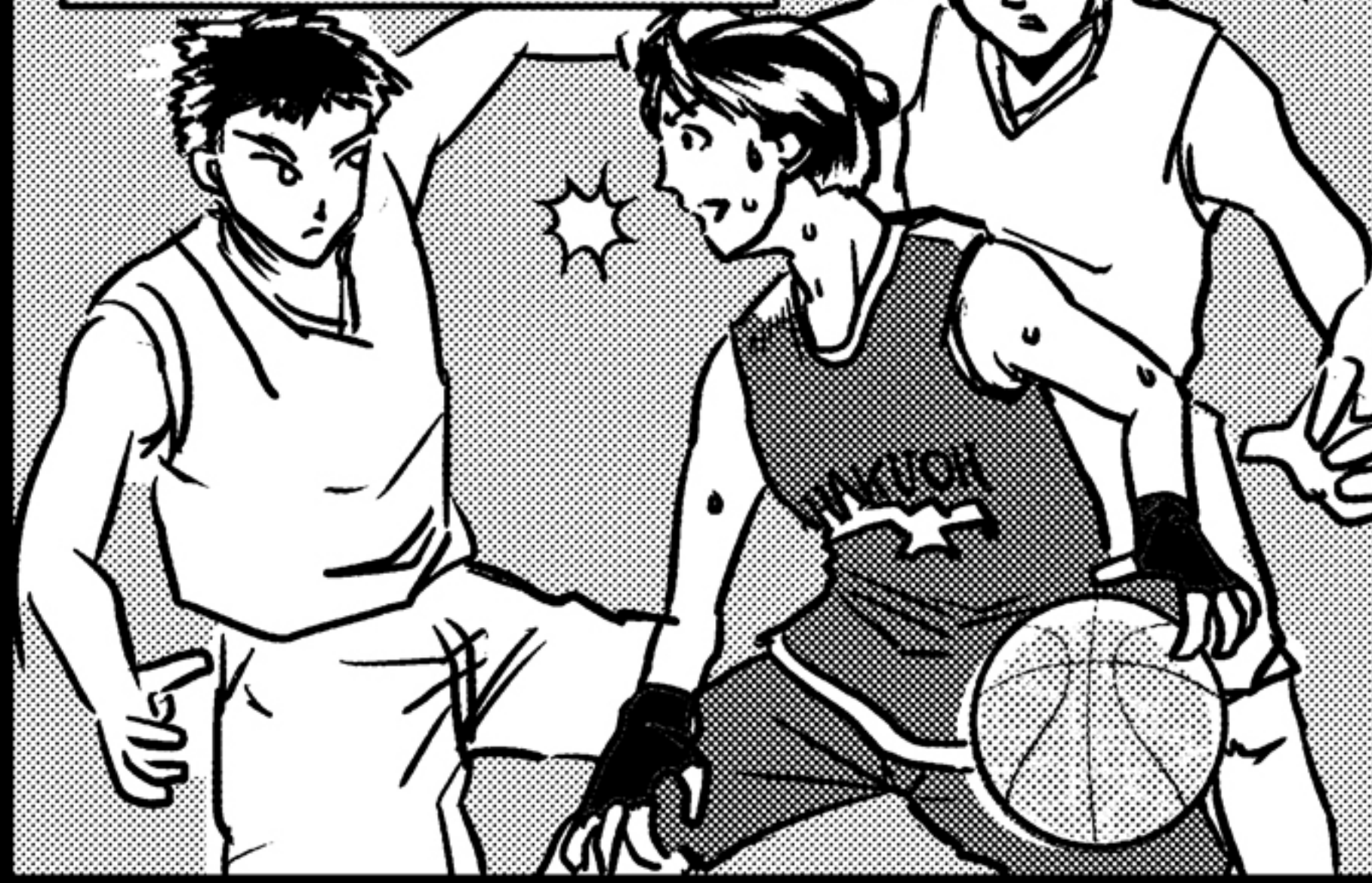
ところが

白鷗大学バスケット部  
佐藤 智信 監督



また  
ダブルチーム!!  
これは厳しい

大黒柱のセンター  
を欠いたチームは  
徹底的なマークで  
キキも封じられ  
相手チームの  
一方的な展開に

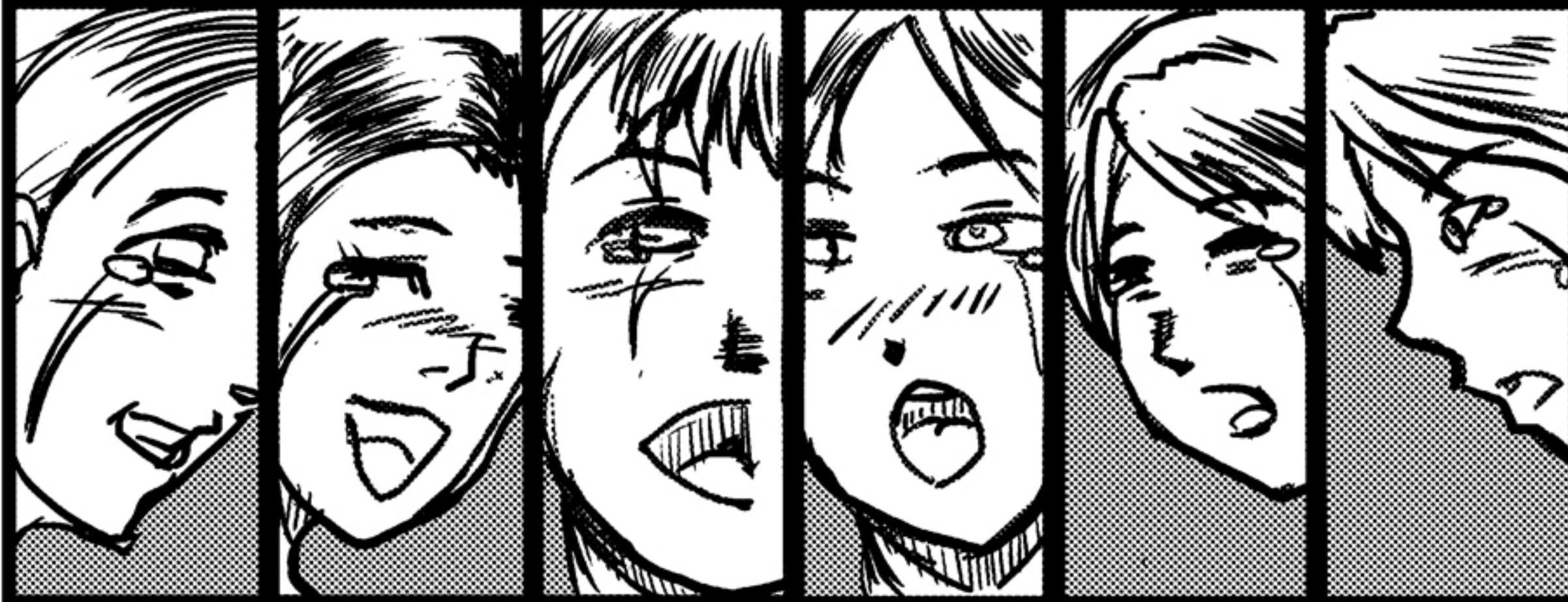


先輩方が引退し  
私たちが主力と  
なった初の  
トーナメント戦

2年連続  
インカレ準優勝  
白鷗大の名を  
継いだ私たちは

まさかの「予選敗退」  
という憂き目に  
遭ったのです

「このままじゃいけない」  
その夜、宿泊先の  
ホテルの一室で  
私たちだけのミーティング  
をしました



ひとりひと  
レベルアップ  
すれば...

キキ頼り  
じゃダメ

スピードで  
勝負しないと

全員が本音をぶつけ  
泣きながら  
語り明かしました

あ、朝日だ...

その日を境に  
バスケットに対する  
取り組み、姿勢、本気度  
全てが変わりました

上級生の変化は  
下級生にも伝わり  
新生・白鷗バスケット部は  
変貌を遂げたのです

こんなに  
バスケットバカが  
集まった年は  
ないよ



そう語る先生の  
横顔はとても  
嬉しそうでした

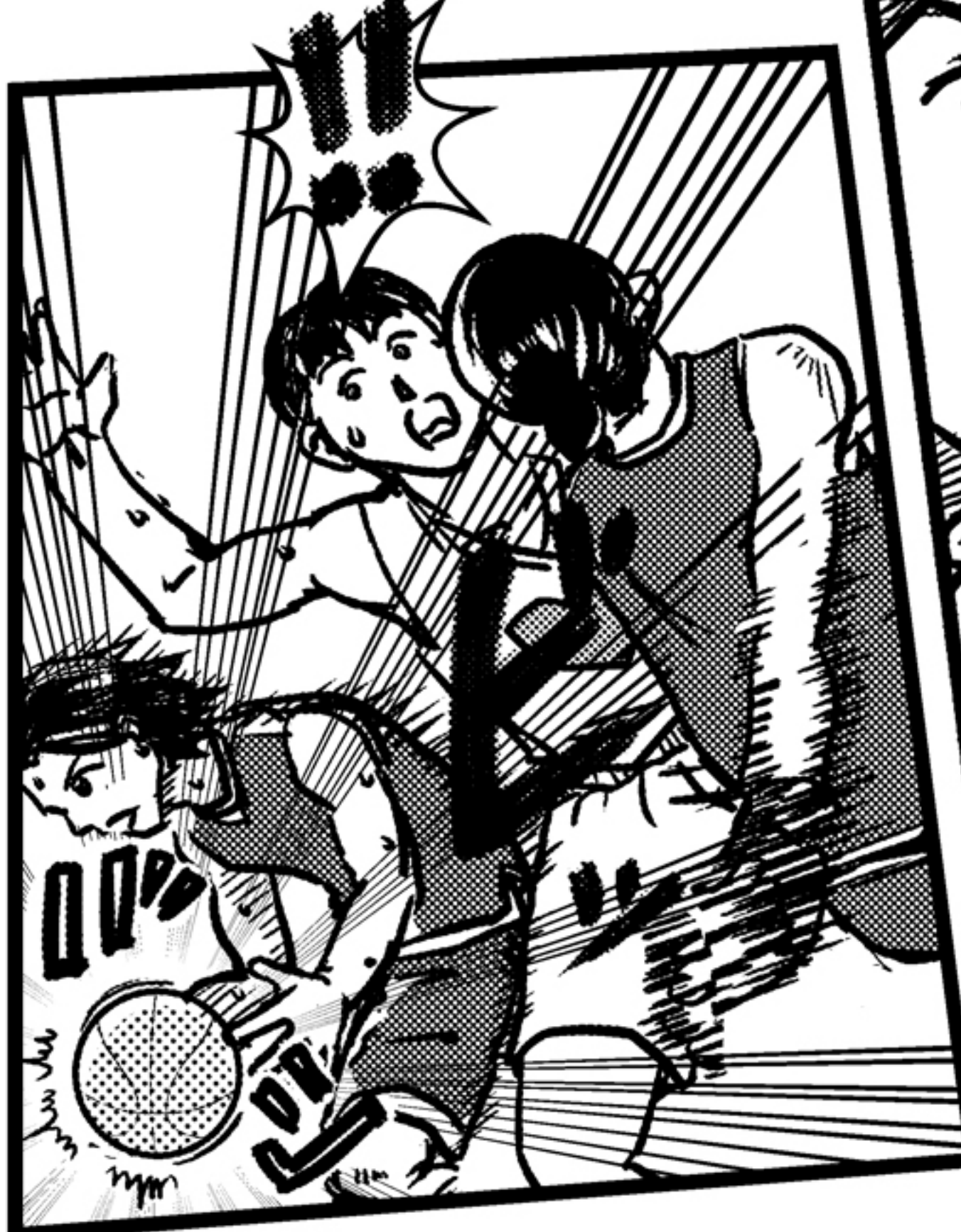


キキ...  
頑張つて!

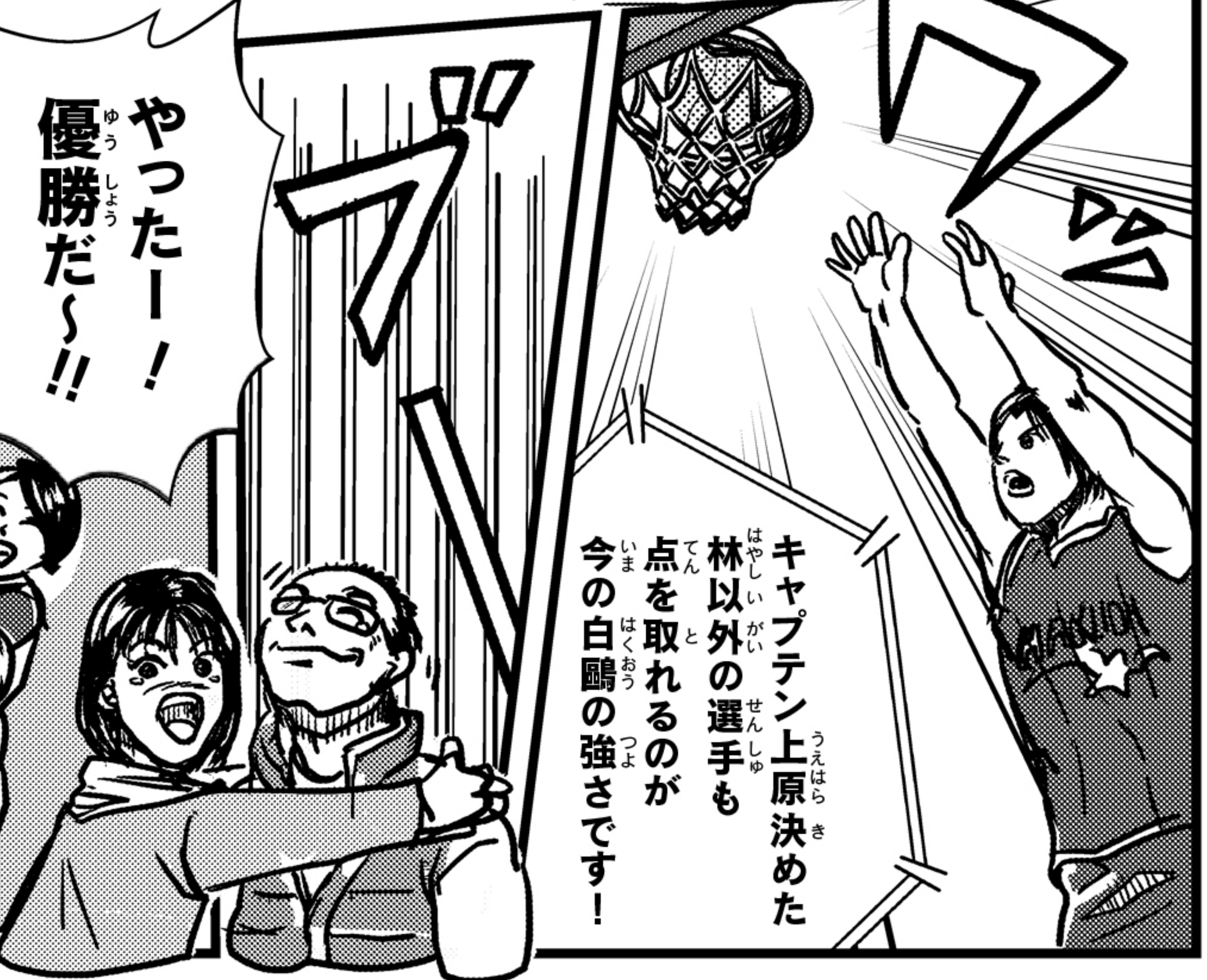


そして迎えた  
第68回インカレ  
決勝戦

ここまで  
一進一退の  
緊迫した  
試合展開!



キキキ



やったー!  
優勝だ!!

キャプテン上原決めた  
林以外の選手も  
点を取れるのが  
今の白鷗の強さです!



こうして私たちは  
悲願の初優勝  
を果たしました

そして、キキは  
大会MVP  
得点王、3P王の  
3冠を得たのでした

卒業後—



私は念願の教師になり  
キキの母校・  
精華女子高校で  
大上先生の下で  
バスケット部の生徒たちに  
教えています

「キキのような  
選手を育てる」  
それが今の目標です